

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101914		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名(ユニット名)	あいの里グループホーム1階		
所在地	和歌山市相坂651-3		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは、地域に向けた施設、地域と共に支えていける施設を目標としています。同法人のデイサービスセンターや小規模多機能型事業所が隣接し、日常的に交流が深く、行事の際は地域の方々とともに賑やかに行われています。地域住民に理解して頂くことが出来るよう、自治会長、民生委員、小、中学校、幼稚園との交流を重視しています。現在コロナウィルスの影響で交流は控えています。日常の介護においても、本人の自己決定を大切に、利用者様が日常生活にストレスを抱えることなく安心して日々を過ごせるよう支援しています。本人様、家族様が施設内で看取りを希望される場合については、本人、家族、医療機関、事業所スタッフと話し合い積極的に受け入れ態勢をとっています。家族様に少しでも利用者様の状況理解いただくために写真と状況報告の手紙を送っています。日々の利用者さんとの日常をあいの里ホームページのブログに掲載している。介護ロボット眠りスキャンを導入しています。介護ソフト・ほのほのNEXTを活用し書面業務の短縮化・明確化に繋げている。日々利用者さんの意見を聴き、意見を反映できるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム内に入ると真ん中に大きなフロアがあり、それを囲むように各居室が配置されています。窓も大きく光が差し込み、居心地の良い空間がそこにあります。利用者とのコミュニケーションを大切に、利用者職員が寄り添い、両者が共にいい環境で居心地よく過ごせるよう努められていることが感じられます。コロナ禍で今まで行っていた地域交流や買い物等の外出ができなくなりましたが、敷地内で散歩するなど外気にふれる機会を作っています。面会方法も家族の希望を取り入れながら、感染対策と並行し工夫して行われています。重度化した場合も本人や家族の意向の基に、医師や看護師と連携を図りながら看取りの支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「一日一笑」として、利用者様・職員皆が笑顔で元気な毎日を送れるようにとの思いで作日々実践している。	法人の理念とは別に各フロアごとにスローガンを掲げている。一日一笑、冗談を言い合ったり、利用者と一緒に笑って過ごせる時間を大切に考えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防のため地域の皆さんとの交流は図っていません。	コロナ禍前はボランティアの来訪もあったが、現在は感染対策のため、人との接触を極力控えている。今後は、近くの古民家カフェなどに出かけるなど、少しずつ交流を広げていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の神社の餅拾い毎年参加してましたがコロナウィルス感染予防として今年は参加していません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年10月から運営推進会議を再開している。利用者さんの状況や活動報告を行い地域の方や役員、家族、包括支援センターなどから色々な情報をもらいサービスの向上に活かしている。	コロナ禍のため文書での対応を行っていたが、昨年10月より再開し、2か月に1回家族代表、地域代表、包括の方、法人からも出席し、様々な意見を集取しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、地域包括センターと連携を取りケアサービスしていく上でのトラブルや実践について報告し、助言して頂く事で行政との透明化を図っている。	市町村の担当者の方には、金銭問題等わからないことは電話で聞いたり、時には出向いて相談することもあり、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け会議をおこなっている。年2回の身体拘束の研修は各ユニットで行っている。	身体拘束の研修は年2回行っている。常に本人本位の対応を行っており、眠りスキャン導入で変化があれば即駆けつけて対応することで転倒防止にもつながり、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受けた職員が内部研修に参加し報告し、他の職員に虐待防止の徹底を図っている。防犯カメラを設置し虐待防止に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の必要性は理解している。職員同士で話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、契約書・重要事項説明書・事業所の方針について説明を行い、理解・納得した上で契約をしている。改正時には、変更の同意書に署名・捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口があり相談役を配置している。玄関には質問箱を設置している。家族様訪問時は意見を聴き話し合える機会を設けている。	普段からご家族様と面会の機会に利用者様の様子を伝え又お話を伺っている。本人様からの要望にもできることはどんどん取り入れ対応を行っている。以前は家族会を行い、利用者と家族が共に食事をしていた事もある。家族等からの要望もあり、開催の検討をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声に耳を傾けケア会議や毎日の申し送りで話し合い、さらに管理者会議で提案して、運営に反映させている。	毎日の申し送りの際に意見を出し合い、又、月1回のケア会議でも職員の声を集約している。管理者と職員との密な関係があり、利用者についての意見も出てくるため、その後のケアに結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幹部が各事業所を巡回し職員と話す機会を持ち、個々の考えや思いを聞き状態把握につとめている。職員の些細な意見でも聞き入れ検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コンサルティング事業の方を呼び職員研修やリーダー研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アンガーマネジメント研修や苦情相談研修、施設職員研修会等参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とよく話し合い、意向を聴き取りここで生活を楽しんでいただけるように計画を考え、安心安全に生活できるよう努めています。意見を取り入れ行事や食事内容などの意見に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや支援してほしい事等をよく聞き取りサービス導入時に計画に盛り込んでいく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今何を必要としているか、優先順位を考え、まず必要としている問題から取り組むようにしている。本人が安心した生活を送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる範囲内で職員と一緒に掃除、洗濯物を干したり畳んだりと色々手伝っていただき役割を持つことで本人主体で生き生き日常生活できるように支援している。生活の中で本人が自身の力を出し、足りない所を介助することで本人の残存能力の維持・向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にとり本人を支えていく上で協力していける関係を築いている。家族と一緒に考え、意見を言い合える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の影響で玄関で面会になっている。家族・友人が面会に来られている。	知人からの手紙やはがきに返信したり、電話連絡を取るなどの支援を行っている。今後は、希望があれば外泊なども再開していきたい。「白髪染めのために美容院に行きたい。」と言う利用者の希望を検討されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話をしながら日常生活の手伝いや体操レクリエーションに参加できるような支援をおこなっている。時には職員が利用者同士の間に入り良好な関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設を訪問してくれ、家族から感謝の言葉を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を聴き希望がかなえられるか否かを見分け、少しでも要求に答えられるように努めている。	入居時には統括と管理者が、家族からの説明で、生活歴を含め意向の把握に努めている。又、入居後は、傍でケアにあたる職員が、会話やご様子から本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの馴染みの暮らしを本人・家族に聞いたり担当の居宅支援専門員に情報をもらいこれまでの生活の把握に努めている。その他一人一人の生活の中で知り得た情報も会議・申し送り等で話し合う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式等を取り入れて一人一人の出来る事又好きなことをに挑戦してほしい事等話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、会議や申し送り等で話し合いニーズを抽出している。又家族、本人とは電話や訪問時に話を聞き意向を取り入れ介護計画の作成に当たっている。	モニタリングを定期的に行い、職員を中心に、医師や看護師とも連携しながら、その人にあつたケアを話し合っている。介護計画がより良いケアに繋がるよう、意見やアイデアを出し対応を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の間で申し送りノートを利用して情報の共有をして個々の気づきやニーズの変化等を話し合いニーズの変化があればその都度見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関を設け体調急変があつた場合は、医療をうけることができるよう柔軟に対応している。グループホームの待たれている方も多いため法人内で連携を行う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院から訪問美容に来て下さり散髪を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の希望を聞き、施設の協力医か以前のかかりつけ医の継続かを決めてもらい対応している。緊急時に専門医の受診が出来ない場合職員が付き添い、状態を説明し対応している。	かかりつけ医は、本人や家族の希望があれば、今までのかかりつけ医に継続されることもある。専門医の往診も受けられる体制があるが、必要があれば受診の送迎等を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回木曜日に訪問看護ステーションの看護師により、健康状態の確認や助言、対応等を行ってもらっている。職員が状況等を説明しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連絡室と連絡を密にとり入退院の連絡や入院時の本人の情報交換をし、病院関係者との関係づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応し得る支援について説明を行い相互に納得し支援を行っている。本人や家族様の意向を踏まえ医師、職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	入居時に、看取り対応を行っていることを伝えている。重度化した場合、本人や家族の意向をふまえ、医師、看護師、職員が連携をとりながら、納得した最期を迎えられるよう、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は救急車の手配、職員の確保等マニュアルを作成して明示している。応急処置や初期対応の訓練もおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力依頼し、年2回入居者と共に避難訓練を独自に行っている。地域の方にも協力してもらえるようにつとめている。消火器や消火用散水栓の点検も行っている。水害時は迅速に判断し入居者を2階へ避難してもらう。	火災を想定した避難訓練を、日中と夜間で想定し、年二回行っている。利用者も職員と一緒に避難誘導に参加している。水害時は、垂直避難することを全職員が認識している。	現在、準備段階の備蓄体制について、早急に整うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに配慮して排泄、入浴、更衣時等、援助が必要な時も本人を尊重して行っている。職員同士も声かけに配慮することを注意し合っている	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し、声掛け等も工夫している。特に、排泄に関しては自立支援を尊重し、細やかなケアを実践している。職員間でさらにより良いケアを目指し、注意し合いながら対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の普段の生活をよく観察し、会話を聴き、利用者様の思いを引き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々ゆったりとした時間を過ごしていただく為に利用者様一人一人に合った生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用されヘアスタイルも本人の希望を聞き、カットして頂けるようにしています。洋服の選択は入居者に希望を聞き家族様に伝え持ってきていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力を把握し一人一人考え料理の手伝いをしていただいている。料理の盛り付けやお茶入れ、野菜などの皮むきなど。	以前は、利用者も一緒に買い物にも行っていたが、現在は、食材を業者に発注しているため、利用者はできることを手伝っている。冷蔵庫の中の食材を見て献立を考え、お鍋を作ったり、おやつに鈴焼を食べたり、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量、食事形態で提供している。その日の体調に合わせて本人と話し合いながら食事量を決めている。食事量・水分量はケアパレットに記入し確認・把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、昼食後、就寝時に行っている。入居者に応じ声かけ、介助にて口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアパレットで排泄チェック・把握している。その人に合ったパターンで声掛けしトイレ誘導している。	各部屋にトイレがあり、プライバシーが守られた支援がなされている。タブレットで排泄周期を知ること、適切な誘導ができ、パットの枚数が減るなど自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には毎日ヨーグルトをだすようにしたり、繊維質の多い食材を使うこともこころがけている。レクリエーションでお腹の体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、体調を考えながら希望に沿えるよう入浴してもらっている。湯温にも気をつけている。	入浴は、本人の希望にそって週2～3回行っている。入浴好きの方が多く、坪庭を眺めながら季節に応じてゆず湯を楽しまれる時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人々でお昼寝の時間を設けている。本人の生活に合わせていく中でも生活リズムを作り、適度な運動を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人が確実に薬を服用できるように飲み込むまで見届け困難な人には形態を変えて、プリン、ヨーグルトに混ぜて服薬して頂く。薬の説明書は提供してもらい各職員が把握できるようにしている。服薬時は二人で確認して誤薬しないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、口腔体操、新聞の取り入れ、洗濯物干し、畳み、料理の手伝い等出来ることを各入居者に頼んでいる。又お誕生会の開催、利用者の要望に沿える行事を考え提供し生活に潤いをもたらしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の為外出はできませんが庭に出て散歩やおやつを食べたり、ゴミ捨てに同行してもらったり悠々(あいの里グループホーム)の広場でお弁当を食べたりして少しでも気分転換になるようにしています。	コロナ禍以前は、買い物や戸外で行事を行っていたが、現在は、敷地内の散歩や洗濯物を干すときに外気に触れる機会を得ている。また、同じ法人内の広場で花見をして、花見弁当を楽しむ機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウィルス感染予防のため、買い物に行くことはありませんでした。利用者様が新聞の広告で好きな物があれば利用者様が家族様と相談し服や物の購入していただくことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し電話の対応ができる時間帯にはいつでもかけられるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は入居者一人一人の体感温度が違うのでその人に合わせて、膝掛け上衣等で工夫している。大きな窓があり花や立木のある。季節により壁に皆で作成した季節物の作品を飾ったり、季節により様々な野菜を育て中庭から季節を感じられるようになっていく。	共用空間には、利用者が作った温かみのある作品が飾られている。また、温度計湿度計を活用し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。時にはモップ掛けをするなど、利用者も一緒に掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でテレビを観られたり、ソファで新聞を読まれたり中庭で入居同士が話しをされたりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用されていた、ダンスや鏡台、家族の写真を持ってきて頂き、安心して生活して頂けるようにしている。	自宅で使用されていた仏壇やダンスなどを持ちこみ、本人の希望と動線を考えて配置している。必要に応じてマットを敷き、手すりを設置する等安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の横に名札をいれ本人が自分の部屋と確認できるようわかりやすくしている。洗濯物畳み、干し、食器洗い食事の用意、配膳等生活全般を職員と共にする事で安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		